

# 北杜市白州町 市有地利活用検討プロジェクト報告書

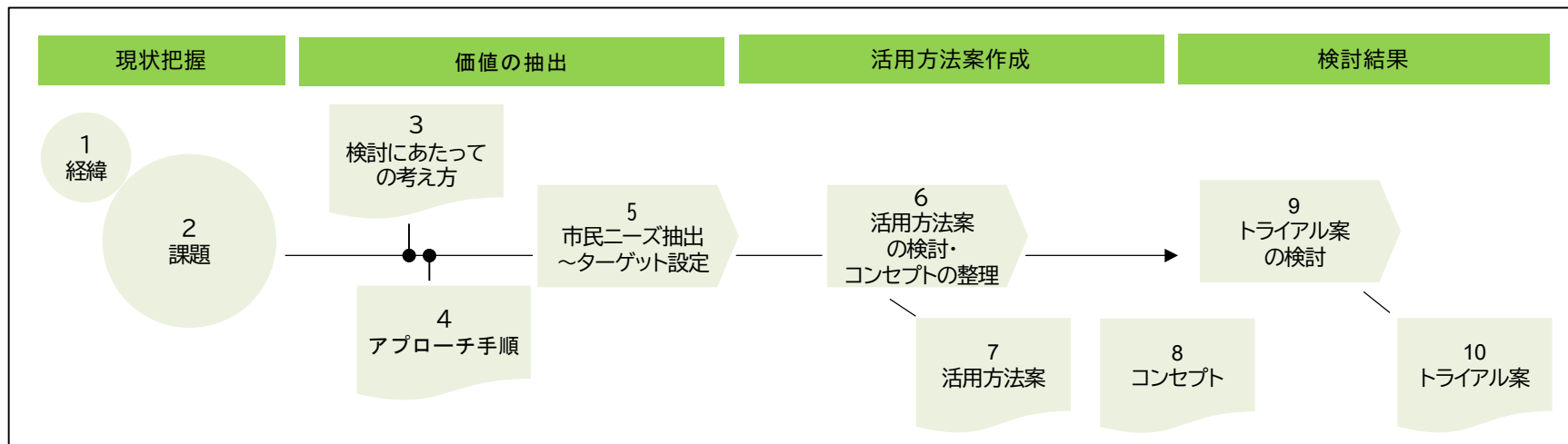


2025年8月

北杜市未来戦略会議

## 全体構成

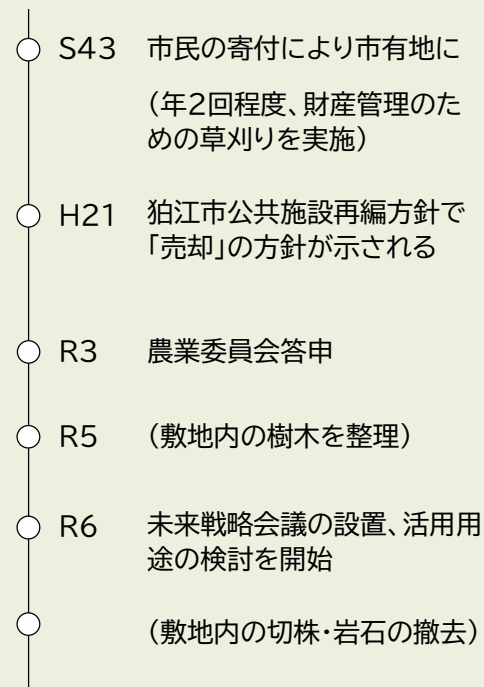
- 本報告書は、狛江市が所有する山梨県北杜市白州の市有地の「今後の利活用の方向性」と「具体的な活用用途」を提案するものです。
- 本報告書は会議の検討過程をなぞる形で作成しています。取りまとめにあたっては、当該市有地の「これまでの経緯<sup>①</sup>」と、「検討にあたっての課題<sup>②</sup>」を整理してから、検討作業に入りました。この検討作業では、まず「検討にあたっての考え方<sup>③</sup>」を定め、市民ニーズの抽出から開始し、活用方法案の検討、トライアル案の検討までを“3つのフェーズ”に分けて進めました<sup>④⑤⑥⑨</sup>。
- そして、今後の方向性としての「活用方法案<sup>⑦</sup>」とこれまでの検討作業をまとめた「コンセプト<sup>⑧</sup>」、この活用方法案を実行する際の課題の検証を目的とした「トライアル案<sup>⑩</sup>」を整理しています。



# 1. これまでの経緯

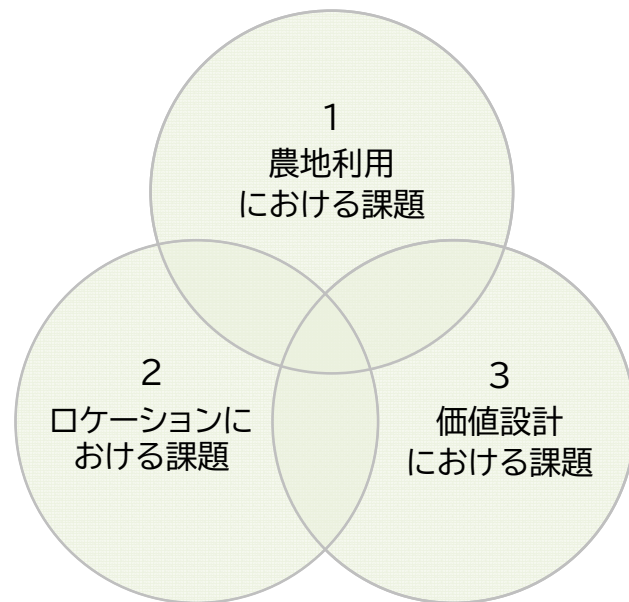
- 白州の市有地は、昭和43年に市民から寄付されたおよそ10,000㎡の「原野」で、寄付を受けてからこれまで、年に2回程度、敷地管理のための草刈りを実施していますが、それ以外には特段の活用がされることなく、現在に至っています。
- 平成21年には、狛江市公共施設再編方針において、「将来的にも公共施設としての活用が見込まれないことから、売却する」との方向性が出されるも、その後も具体的な進展は見られませんでした。
- また、令和3年2月に出された農業委員会の答申では、農地としての活用を念頭に、農業利用のほか農業以外の具体的な活用用途の提案と、そのために解決すべき課題も提示されました。
- これら一連の経緯を踏まえ、市の若手・中堅職員を中心に、中・長期的な視座に立って、これからの狛江のまちにとって価値のある活用用途を検討するため、令和6年3月に狛江市未来戦略会議を設置し、検討を開始したものです。

北杜市白州町横手字上川原321-3  
面積:9,975㎡ (地目:原野)



## 2. 検討にあたっての課題

- この白州の市有地に関するこれまでの経緯や現在の状況、市長からの指示内容を踏まえ、未来戦略会議として、この先の検討を進めていくにあたって特に留意しておく必要がある「3つの課題」を整理しました。
- 「1.農地利用における課題」とは、当該市有地を農業用途で利用しようとしたときに想定される課題で、その内容は、令和3年2月の農業委員会答申で概ね整理されていますので、本報告においてはこの答申を参照することとします。
- 「2.ロケーションにおける課題」とは、狛江市と北杜市間の距離（遠さ）に起因する課題です。
- 「3.価値設計における課題」とは、この白州町の市有地がもたらす“市民にとっての価値をどのように設計するか”という課題です。加えて、事業の継続性を担保する観点からも、この市有地で展開されるプロジェクトが、北杜市の方にとっても価値があるものとしていく必要があります。



## 2-1. 農地利用における課題「令和3年2月狛江市農業委員会答申」

令和3年2月の農業委員会答申において、この市有地を農地として利用することを想定した、「現状・課題」「意見提案にあたって前提となる要件」「農業及び農業以外の利活用の可能性」が答申されています。

### ■現状・課題

狛江市からの距離が遠いことで管理に支障が出るのが想定されること、作物によっては害獣被害が想定されること、10m以上の樹木や5tクラスの岩石が点在し、この時点での状況としては農地としての活用が難しい状況にある、としています。

### ■前提要件

そのうえで、農地として活用するには、除草、樹木伐採・抜根、岩石撤去、整地といった“当該地の開墾”が必要であり、かつ、そのうえで土壌改良、害獣対策、農地管理のためのライフラインの整備等も必要としています。

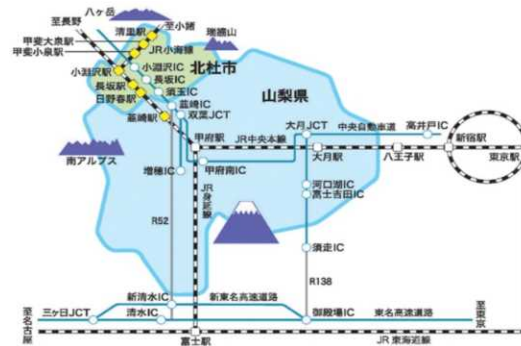
### ■農業及び農業以外の利活用の可能性

稲作やワサビの栽培、イワナ・ヤマメ等の養殖、蕎麦、山芋、自然薯、果樹栽培、ブルーベリーのポット栽培等が提案されています。また、農業以外でも、キャンプ場やクラインガルテン(滞在型市民農園)の経営、天然水の採取・販売、“里山農園”などが考えられる、としています。



## 2-2. ロケーションにおける課題

- 北杜市は狛江市から直線距離で約100km離れており、公共交通機関を利用する場合は、電車とバスを乗り継いでおよそ3時間半から4時間半、車で中央自動車道を経由しておよそ2時間を要します。
- この狛江市と北杜市の“ちょっと気軽には行きづらい”距離は、白州の市有地で行われる事業に参加する参加者の時間的・経済的負担を増大させ、特に、今回提案する活用方法案やトライアル案のメインターゲットとして想定する子育て世代やシニア世代などにとって、事業への参加を躊躇させる要因になる可能性があります。
- あわせて、事業の運営に要するコストも、例えば市内や近隣の土地で同様の事業を行った場合と比べると大きくなると考えられます。
- 一方で、北杜市は八ヶ岳南麓の豊かな自然に恵まれ、新規就農者にとって魅力的な土地であることと、北杜市においても移住促進に力を入れていることから、都市部から北杜市に移住して農業を始める方も多く見られ、新しい取り組みを受け容れる土壌があります。



北杜市HPより



ほっとするまち、北杜市移住定住

北杜市は、自然豊かな環境と、安心して暮らすことのできる生活環境を提供しています。移住を検討されている方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

フォローする



シリーズ：北杜市に移住しました (Vol.28)



北杜市で開催された移住・開業を支援する「北杜ツアー」に北杜ファン...

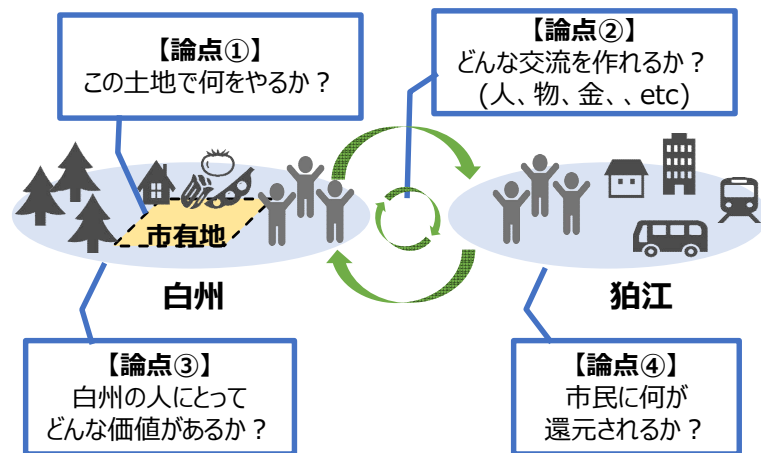


鉄の造形

出典：<https://hokuto-city.note.jp/m/6d723b446798>

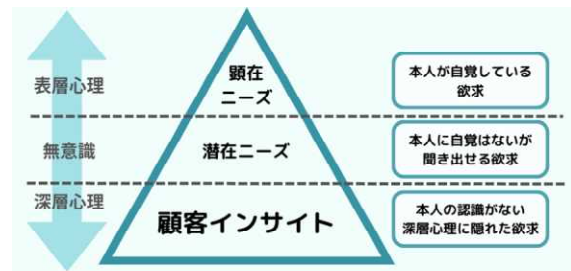
## 2-3. 価値設計における課題

- 今回の未来戦略会議の設置にあたって、市長から「この白州の市有地を活用することで、これからの狛江のまちや狛江市民にとって、どのような価値をもたらすことができるか」という点について、常に意識して検討を進めるよう指示がありました。
- 寄付を受けてからこれまで、50年以上にわたって特段の活用を行うことがなかった当該市有地においては、狛江からの距離が遠いことも踏まえると、何らかの形で、北杜市の方の協力や“関わり”をいただきながら進めていく必要があります。
- そのため、この白州の市有地を活用した事業では、狛江市民にとっての価値とあわせて、北杜市の住民や事業者の方にとって、どのような価値があるのか。狛江と白州それぞれにとっての価値を検討作業のなかで明確に定義していく必要があります。



### 3. 検討にあたっての考え方

- 先に述べた「3つの課題」にも照らして、当該市有地を「農業」のみで活用することには様々な面で限界があると判断して、“農業”に“農業以外の要素”を掛け合わせた活用方法を検討することとします。
- あわせて、それぞれの活用方法によって得られる「市民にとっての価値」を常に念頭に置きながら検討作業を行うようにするとともに、それぞれの活用方法案の比較検討や体系化を行う際の拠り所とするために「価値のパターン」を抽出します。
- また、この「価値のパターン」の抽出は、“これからの”まちや粕江市民のニーズを汲み取る必要があることから、いわゆる「潜在ニーズ」や「インサイト」を重視して考えていきます。



出典:<https://www.onoff.ne.jp/blog/?p=3666>



## 4. アプローチ(検討手順)

- 「3. 検討にあたっての考え方」を踏まえて、今回の未来戦略会議では3つのフェーズで検討を進めました。
- フェーズ1では、当該市有地に関する基礎的な情報をインプットした後、狛江市民の“特徴”を抽出・深掘りし、8つのペルソナを設定しました。その後、この8つのペルソナを念頭に「活用方法案」のアイデア出しと「価値のパターン」による体系化を一旦行い、白州への実踏で実施したプロトタイプで、この「活用方法案」と「価値のパターン」の繋がりを確認しました。
- フェーズ2では、白州への実踏で得た情報を加えて、「活用方法案」をブラッシュアップしていきました。また、このブラッシュアップの一環として、狛江市商工会青年部のメンバーとの意見交換も行いました。
- フェーズ3では、フェーズ2でブラッシュアップした「活用方法案」を実行する際の課題の検証を目的とした「トライアルプロジェクト」を検討しました。

フェーズ1  
市民ニーズ抽出  
～ターゲット設定

フェーズ2  
活用方法案の検討・  
コンセプトの整理

フェーズ3  
トライアル案の検討

## 5-1. 市民ニーズ抽出～ターゲット設定（フェーズ1）

- このフェーズ1では、白州の市有地に関する基礎情報や昨年度狛江市商工会青年部で実施した視察研修で得られた情報をインプットしたうえで、日頃、メンバーがそれぞれの業務で市民と接している中で、「市民が感じていること」「潜在的なニーズがありそうなこと」を抽出し、メンバー間で狛江市民の特徴の認識をすり合わせるところから議論を始めました。
- さらに、ここから狛江市民の特徴をさらに深掘りし、その後のディスカッションを円滑に進めるため、実家暮らしの大学生、子育て世帯、シニア世代の夫婦など、8通りのペルソナを設定しました。

ペルソナA



ペルソナB



ペルソナC



ペルソナD



ペルソナE



ペルソナF



ペルソナG



ペルソナH



## 5-2. 市民ニーズ抽出～ターゲット設定（フェーズ1） -ペルソナから価値パターンと事業アイデアの導出-

8つのペルソナは、様々なライフステージや生活スタイルを具体的に設定した仮想市民像です。狛江に暮らす人々が白州に感じる価値をパターン化して整理し、その実現が期待できる実際の行動として事業アイデアを導き出しました。

### 8つのペルソナ（仮想市民像）



「白州に感じる価値」の実現が期待できる  
実際の行動として事業アイデアを検討

### 事業アイデア

- 1.白州体験塾
- 2."うちの子レストラン"
- 3."土から始まる！はくしゅう無農薬野菜クッキング"
- 4.白州の恵みを味わう、無農薬野菜クッキング
- 5.わたしのやさいPjt.
- 6.白州インフォメーション・センター
- 7.お試し移住
- 8.わたしの田舎
- 9.サウナ&ビール
- 10.H-1グランプリ
- ⋮
- 42.『パパ育成塾』

ライフステージ・スタイルに応じた  
「白州に感じる価値」のパターン化

### 価値のパターン

- 憧れのセカンドライフに1歩近づける
- 自分にとっての新しい繋がりができる
- 自分にとっての第3の居場所を獲得できる
- 新しいライフスタイルが見つかる
- 息抜き、リラクスの時間ができる
- 体に良い食べ物を子どもに与えることができる
- 小さかった子どもの成長を感じられる
- 私(家族)だけのオリジナルの楽しみができる
- 親子のコミュニケーションが充実する
- オリジナリティのある製品が提供できる
- 出費が抑えられる気軽な旅行先ができる
- 地域への貢献が、白州での楽しみに繋がる
- 狛江のデザイナーが活用される
- 新しい価値が付与される
- 新しい学びと"やりがい"が獲得できる
- 新しい挑戦ができる

## 5-3. 市民ニーズ抽出～ターゲット設定（フェーズ1） -令和6年7月実踏-

- ・7月に実施した白州の市有地への実踏では、3つのチームに分かれて、いくつかの「活用方法案」のプロトタイプを行いました。
- ・各チームの価値検証項目として、「私(家族)だけのオリジナルの楽しみができる」「親子のコミュニケーションが充実する」「オリジナルのある製品が提供できる」「新しい学びと“やりがい”が獲得できる」「自分にとっての新しい繋がりができる」「新しい挑戦ができる」「息抜き、リラクスの時間ができる」をプロトタイプとして実施しました。

### 農場チーム

近隣の農家へ訪問し収穫体験⇒  
自分たちで調理&採れたて野菜を  
大切な人へ発送



### インフルエンサーチーム

七賢、金精軒サントリー白州蒸留所、  
道の駅白州を巡りながら  
白州の魅力をSNSで発信



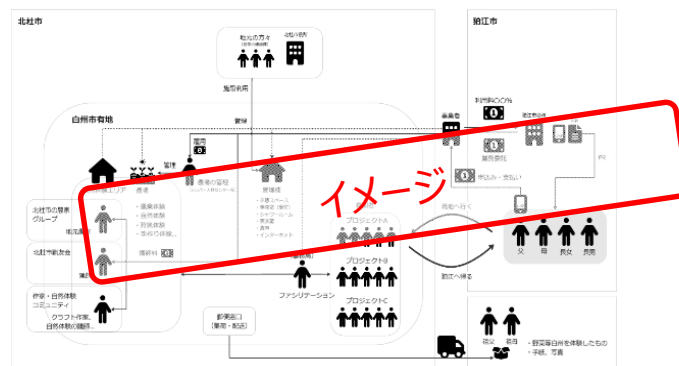
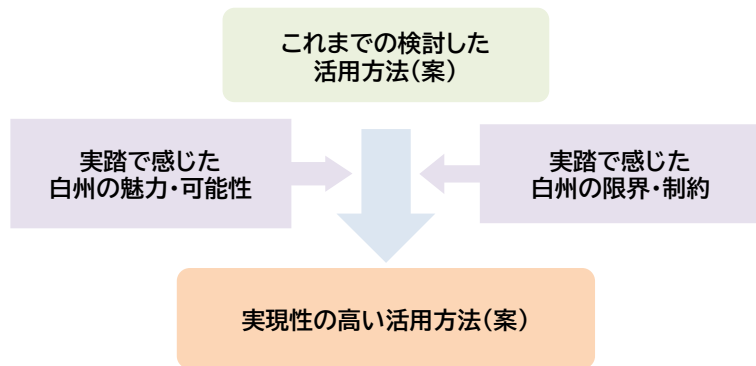
### トレッキングチーム

尾白川渓谷へ行き実際に  
ハイキングコースを散策



## 6-1. 活用方法案の検討・ブラッシュアップ・コンセプトの整理（フェーズ2）

- フェーズ2では、フェーズ1で抽出した市民ニーズをベースにプロトタイプした活用方法案について、白州の市有地への実踏で実際に自分たちが体験したことにより得た情報（白州の魅力・可能性/白州の限界・制約）を加え、より実現性の高いものになるようブラッシュアップを行いました。
- また、このブラッシュアップ作業のなかでは、「活用方法案」の全体像を可視化する目的で、活用方法にぶら下がる事業ごとに「価値のパターン」「メインターゲット」「事業内容」などを整理したほか、事業に係る“費用感”も検討しました。また、オンライン・ホワイトボードツール『miro』を使用して、事業に関係するステークホルダーと、ステークホルダー間を移動するリソース（ヒト・モノ・カネ・情報）を整理しました。



## 6-2. 活用方法案の検討・ブラッシュアップ・コンセプトの整理（フェーズ2）

- そして、この「活用方法案」の整理・ブラッシュアップが一通りなされたところで、事業者の立場から日頃より市民とコミュニケーションを取るとともに、北杜市の事業者とも繋がりのある狛江市商工会青年部のメンバーと、狛江市民のニーズや特徴の“照合”、各プロジェクト/事業における検討項目の過不足、事業性の検証の観点や事業手法の精査を目的とした意見交換を行いました。



**補完・協働**

- ✓ 日々の業務や生活で感じている市民の特徴やニーズ
- ✓ 1つのプロジェクト/事業として考えたときの過不足
- ✓ 事業性を検証するための観点や方法の精査

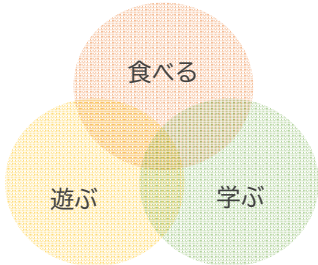
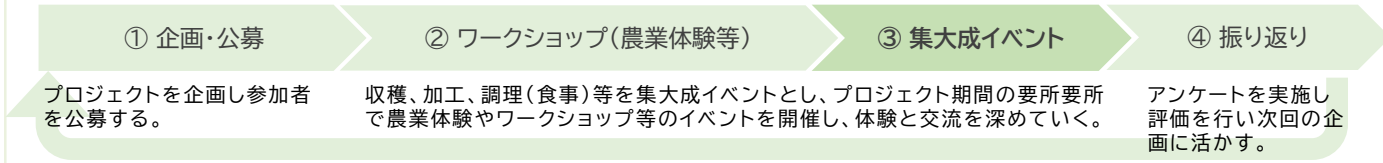
狛江市商工会青年部

より現実的な  
トライアルプロジェクト(案)へ

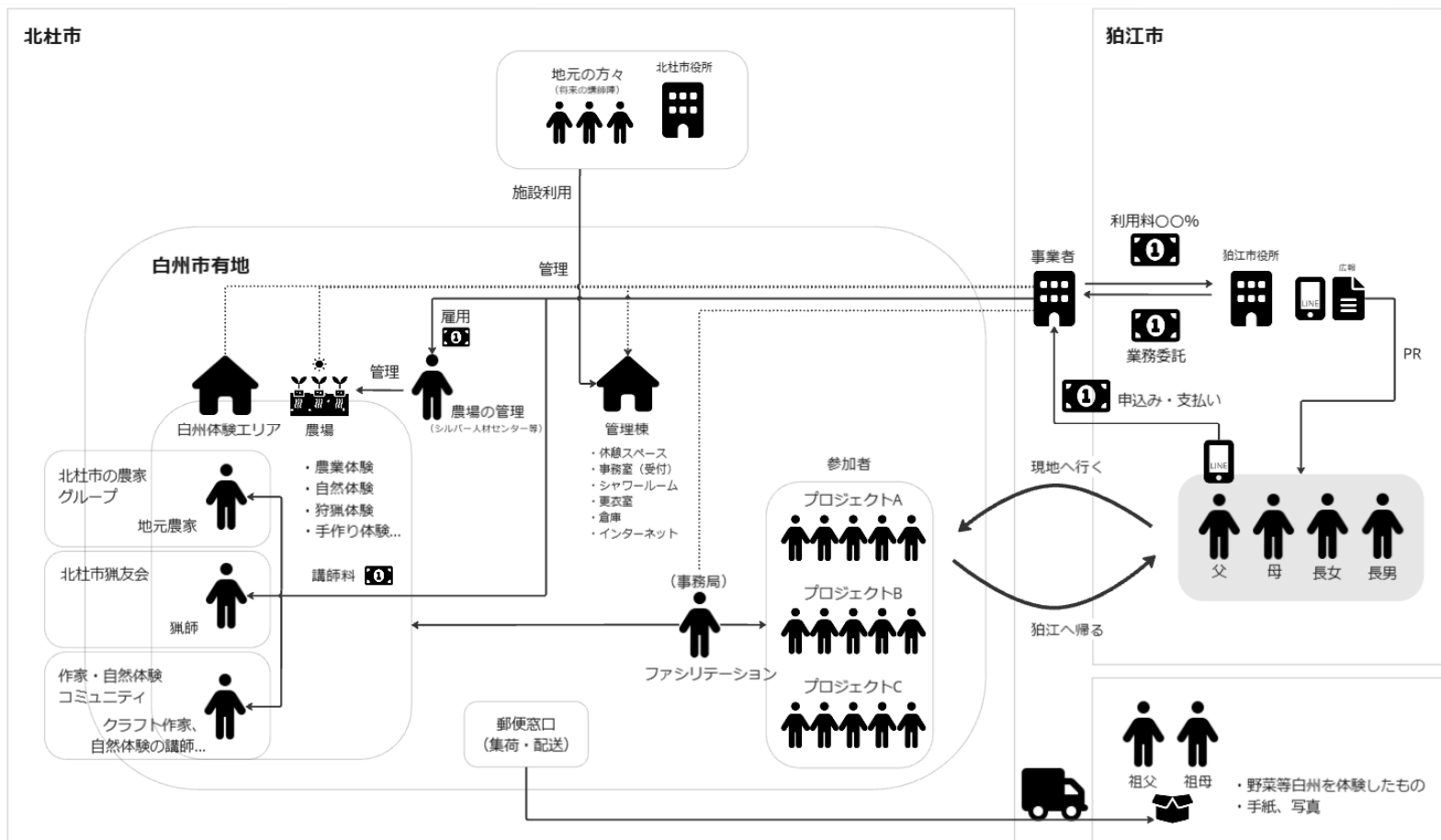
※合わせて一緒に作り上げていく  
協力関係を築く



## 7-1. 活用方法案① 白州体験塾

|          |   |             |  |
|----------|---|-------------|--|
| 事業名      | 白州体験塾   | 求められる<br>価値 | 子どもが多様な関係性の中で、<br>新しい食・自然・学習体験を通して心豊かに成長するとともに、親が子どもの成長を実感できる。 |
| メインターゲット | 子どもとその親(子育て層)   |             |  |
| 価値のパターン  | 小さかった子どもの成長を感じられる<br>親子のコミュニケーションが充実する<br>新しい学びと“やりがい”が獲得できる  |             |  |
| 事業内容     |  <p>市有地で「食べる・遊ぶ・学ぶ」をテーマとした体験事業を行う。<br/>白州・狛江の多様なコミュニティとつながり、食や命、自然環境を考えるきっかけとなる体験を提供して、子どもを中心に参加者へ心豊かに生きることを感じてもらう。<br/>体験はプロジェクト形式で企画し、都度参加者の公募を行う。期間中には内容に応じたイベントやプロジェクトを横断した季節イベントを企画することで、人と人が交流する機会を創出する。</p>                     |             |  |
| プロジェクト例  | <h3>お野菜つくってたべようプロジェクト</h3>  <p>① 企画・公募<br/>プロジェクトを企画し参加者を公募する。</p> <p>② ワークショップ(農業体験等)<br/>収穫、加工、調理(食事)等を集大成イベントとし、プロジェクト期間の要所要所で農業体験やワークショップ等のイベントを開催し、体験と交流を深めていく。</p> <p>③ 集大成イベント</p> <p>④ 振り返り<br/>アンケートを実施し評価を行い次回の企画に活かす。</p> |             |  |

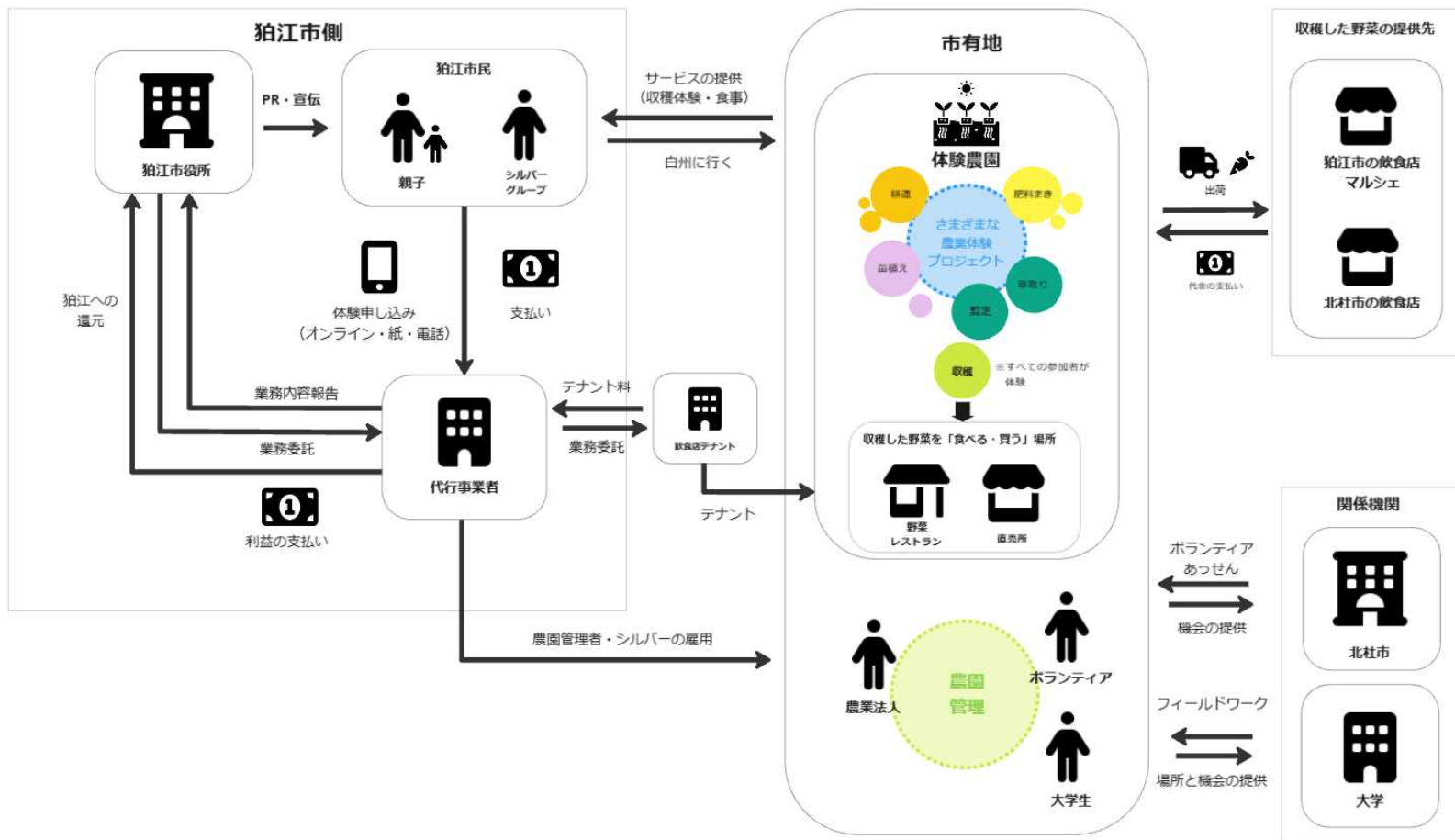
## 7-2. 活用方法案① 白州体験塾 ステークホルダーマップ



## 7-3. 活用方法案② こま☆はく☆ farm&dining

|          |   |             |  |
|----------|---|-------------|--|
| 事業名      | こま☆はく☆ farm&dining  | 求められる<br>価値 | ■子どもに農業体験を通じた植育から、安心安全で美味しい有機農産物を食べる食育までを施したい！<br>■新鮮で安心安全な有機農産物を購入したい！<br>■有機農産物の摂取を通じた健康寿命を増進させたい！ |
| メインターゲット | 30代～50代子育て世代と子ども<br>60代～70代シルバー世代   |             |  |
| 価値のパターン  | 自分にとっての新しいつながりができる<br>自分にとっての第3の居場所を獲得できる<br>体に良い食べ物を子どもに与えることができる<br>私(家族)だけのオリジナルの楽しみができる<br>新しい学びと”やりがい”が獲得できる   |             |  |
| 事業内容     | <u>事業① 農園の運営～農業体験の提供～</u><br>1. 有機農産物を生産する農園を運営<br>2. 農業体験の提供<br>⇒健康に配慮された安心・安全な有機農産物の生産について、耕運、土づくり、種まき、水やり、剪定、収穫等の農業体験の提供を行う。<br>3. 上記を体験できるパッケージツアーの企画・運営<br><br><u>事業② 野菜レストランの運営</u><br>1. 事業①で利用者が収穫した、採れたての有機農産物を調理してもらうことができる野菜レストランの運営 |             |  |

## 7-4. 活用方法案② こま☆はく☆ farm&dining ステークホルダーマップ



## 8-1. コンセプト検討における観点

- コンセプトを検討するにあたり、これまで検討してきた事業アイデアおよび活用方法案から見えてくることに加えて、これまで他の地域で行われてきた活用例を踏まえて、本取り組みに求められることを整理しました。
- 事業アイデアおよび活用方法案からは、「“交流”を軸として新たな付加価値を提供すること」が、他の地域での活用例からは、「継続性のある取り組みであること」が求められると考えられます。

事業アイデア、活用方法案の検討から  
見えてくること

市有地でしかできない「モノ」や「コト」が必要  
それを実現する上で、市有地周辺の「ヒト」との関わりが必須  
狛江、白州の双方にとってメリットのある「交流」がポイント

遠隔の市有地活用における他の活用例から  
見えてくること

保養所としての活用例では、利用者の減少により、維持管理コストが賄えず、継続できない状況がみられた

本取り組みに求められること

単純な土地活用でなく、“交流”を軸として新たな付加価値を提供し、  
継続性のある取り組みとすること

## 8-2. コンセプト

- 8-1の観点を踏まえ、白州の市有地活用におけるコンセプトを以下のとおり定義しました。
- 市有地を基点として狛江市と北杜市の「ヒト」が相互に関わりながら「モノ・コト・カネ」を活用することで、2都市間の文化の交流を生み、両市の地域発展に寄与する仕組みをつくりながら、“新たな都市間交流のカタチ”(=持続可能な取り組みの構築)の実現を図ります。

### 【市有地活用のコンセプト】

市有地を基点として狛江市と北杜市の「ヒト」の関わりを生み、  
モノ・コト・カネの活用を通じて、相互の文化の交流を促進し、  
両市の地域発展に寄与する仕組み

“新たな都市間交流のカタチ”  
(=持続可能な取り組みの構築)

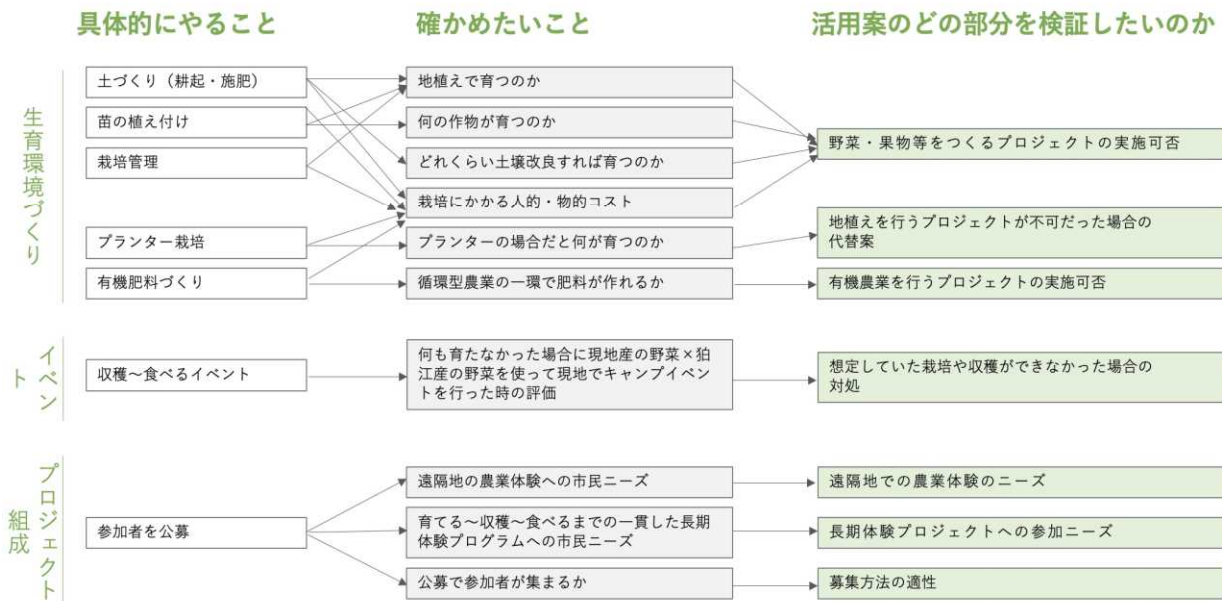
### 8-3. 実現イメージ

実現イメージを絵で表現してみました。豊かな自然と都市間交流のもと、参加者は土づくりから、収穫、調理、食事までに至る各機会を体験することができます。その中で、「植える」「遊ぶ」「食べる」「学ぶ」といった様々な取り組みを種として育て、「おいしい」「楽しい」「嬉しい」といった幸せを感じる収穫に繋がっていきたいと考えています。



## 9-1. トライアル案の検討（フェーズ3）

- フェーズ3では、フェーズ2でブラッシュアップした「活用方法案」において「具体的にやること」から「確かめたいこと」を洗い出し、「活用案のどの部分を検証したいのか」という観点で「トライアル案」で実施すべき検証項目を検討しました。
- 検証項目の検討にあたっては、「トライアル案」での検証の積み重ねが「活用方法案」を実行するための基礎づくりとなるよう、一定の“現実味”をもたせるために市として投入できるリソースも考慮しながら検証のポイントを整理しています。



## 9-2. トライアル案における検証ポイント（フェーズ3）

- 検証ポイントとして、①受容性（狛江市・北杜市双方の市民に受け入れられるか）、②実現可能性（本当に実現できるか）、③収益性（事業を継続できる程度の収益を出せるか）、④持続可能性（事業として継続できるか）の4つを設定しました。
- トライアル案の進展に合わせて段階的に確認するため、検証には概ね3年程度の期間を要するものと想定しています。

| 検証観点  | 令和7年度   | 令和8年度  | 令和9年度   |
|---|---|--|---|
| <b>受容性</b><br>(市民に受け入れられるか?)<br>(市民がやりたいか?) | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市有地での実施する企画作りに市民が関わってくれるか?</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作物は市民がどの程度購入してくれるか?</li> <li>• 作物を加工したものは市民がどの程度購入してくれるか?</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• どのようなサービス、商品であれば、市民が受け入れられるか?</li> </ul>   |
| <b>実現可能性</b><br>(本当に実現できるか?)                | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 白州の市有地で作物は作れる土か?</li> <li>• (作れる場合) どのような作物が作れるか?</li> <li>• 水やり等をができる方法は何があるか?</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作物を加工して何が作れるか?</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市有地の天候を踏まえると何が作れるか?<br/>(継続)</li> </ul>    |
| <b>収益性</b><br>(儲かるか?)                       |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作物に対して市民がいくら払ってくれるか?</li> <li>• 作物を加工したのに対して市民がいくら払ってくれるか?</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• どのようなサービス、商品であれば、市民がお金を払ってくれるか?</li> </ul> |
| <b>持続可能性</b><br>(続けられるか?)                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎年、作物が作れる土か?</li> <li>• 水やりの仕組みは継続的に実施可能か?</li> <li>• 市有地の天候を踏まえると何が作れるか?</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市有地の天候を踏まえると何が作れるか?<br/>(継続)</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市有地の天候を踏まえると何が作れるか?<br/>(継続)</li> </ul>    |

## 10-1. トライアル事業 事業計画(案)

### ・ 事業概要

活用方法案の実施に必要な個々の準備(畑づくり・栽培テスト等)を体験イベントとして、狛江市民を対象に実施します。体験イベントを通じて、市民の参加、理解を得ながら、安定的かつ継続的に農作物を栽培・収穫し、農作物及び加工品の生産、販売につなげていくことができるか検証します。

### ・ 検証プロセス

個々の体験イベントごとに①受容性、②実現可能性、③収益性、④持続可能性を検証します。検証結果に基づき、その後の計画や体験イベントの内容を見直し、改善を図ります。

検証ポイント

①受容性

②実現可能性

③収益性

④持続可能性

令和7年度 主な検証ポイント:①②

環境整備・協力者探索/栽培テスト

農産物の生産と敷地管理に必要な基盤を整備し、北杜市の方の協力を仰ぎながら狛江市民と一緒に栽培テストを行います。

令和8年度 主な検証ポイント:①②④

栽培テスト②/価値検証

北杜市の方との関わりを保ちながら栽培テストの規模を拡大し、生産物の価値を測ります。

令和9年度 主な検証ポイント:③④

栽培/価値検証②/交流

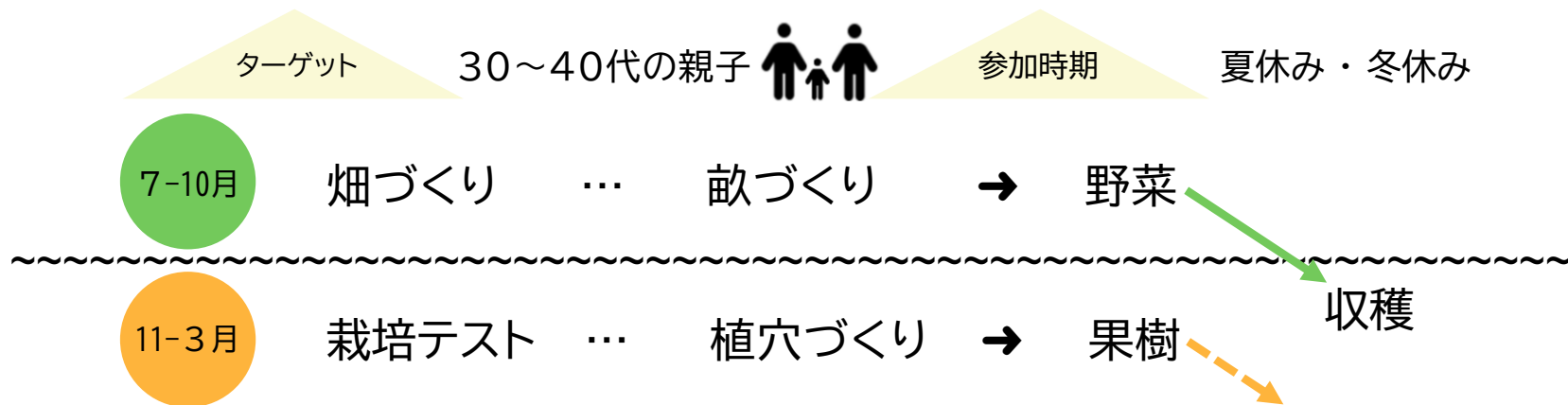
北杜市の方との関わりのもとで事業を継続し、生産物を“あげる・もらう”以外に流通する方法を模索します。北杜⇄狛江の交流も企画します。

## 10-2. 令和7年度トライアル事業案（初年度）

白州の市有地を“拠点”として、初年度は、農を通じた様々な体験と交流が生まれる場をつくるための環境整備と農地利用に向けた栽培テストを体験イベント形式で実施します。

概算費用 3,300千円（基盤整備にかかる費用は除きます。）

- 事業の流れ
0. 環境整備 市有地の状況を踏まえ、事業実施及び敷地管理に最低限必要な基盤整備を行います。同時に、平時の市有地管理に加え、イベント開催時のサポートを市有地周辺の関係者に依頼します。
  1. 畑づくり 前段の環境整備が完了した段階で、市民向けのイベントを企画・告知します。市民参加のもと土壌をつくり、野菜の植え付けまで行います。
  2. 栽培テスト 畑づくりや野菜の生育状況を踏まえ、市民向けのイベントを企画・告知します。次年度以降の事業に繋げるための栽培テストを行います。 ※0.1.の終了時期により判断する。



appendix

## appendix.1) 未来戦略会議 メンバー

### 市職員

- 田所 究 - 市民生活部納税課
- 日野 大 - 市民生活部地域活性課
- 原田 尚吾 - 市民生活部地域活性課
- 永山 嘉秀 - 福祉保健部福祉相談課
- 西村 亜輝彦 - 子ども家庭部子ども若者政策課◎GL
- 酒井 早紀 - 都市建設部まちづくり事業課
- 伊藤 亮大 - 都市建設部整備課



### デザイナー

会議運営支援（全体プランニング、MTGのファシリテーション）

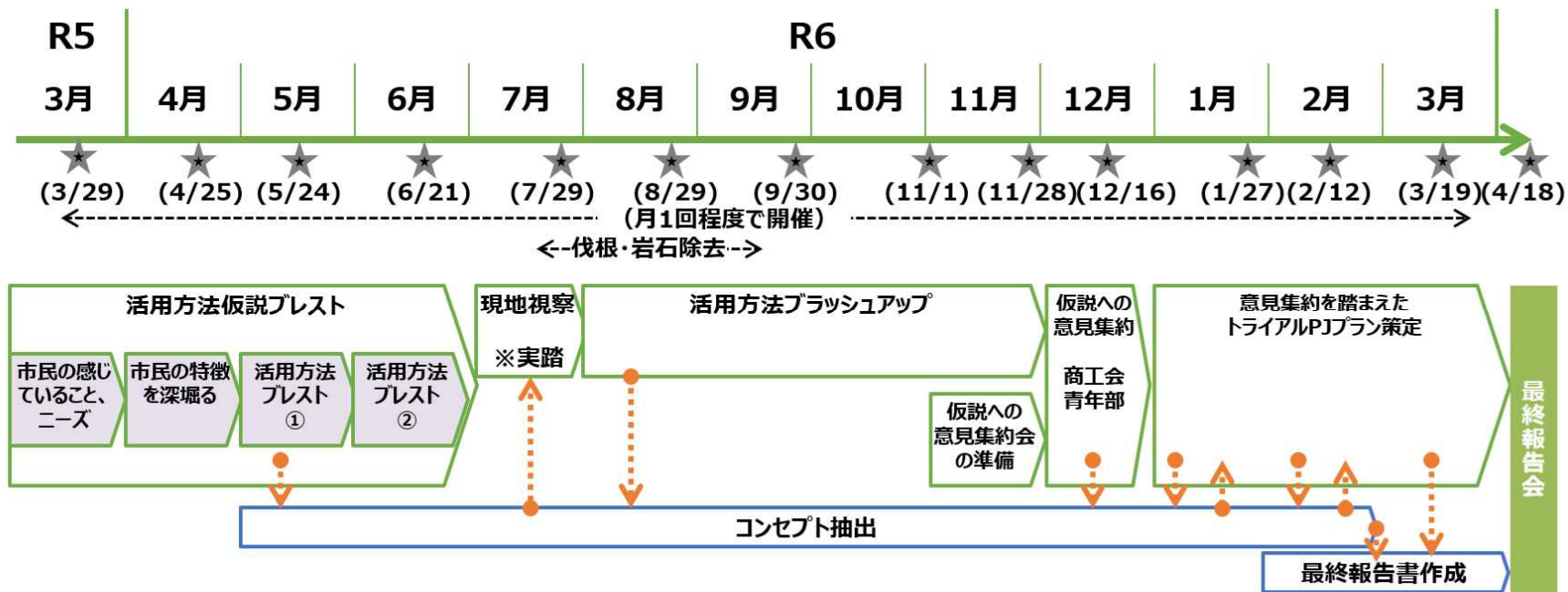


繁平 光伯 さん  
Flex Community合同会社代表  
K.Base Roastery Lab.



伴 真秀 さん  
日立製作所デザインチーム(プロダクトデザイン・サービスデザイン)  
おしチャリラボ

## appendix.2) MTG日程・アジェンダ



## appendix.3) 8通りのペルソナ

ペルソナA  
駒井なおと  
・えり



食の安心・安全を軸に、コンビニエントな都会&自然融合ライフを探るニューファミリー

ペルソナB  
猪方としお



第二の人生を見据え、新たな“IKIGAI”獲得をねらうアクティブシニア予備軍

ペルソナC  
和泉りん



仕事も遊びもクリエイティブに、常に新しい「関わり」を追い続けるエシカル女子

ペルソナD  
野川ゆうすけ



静かに新世代のシビックプライドを取り戻す隠キャTech男子

ペルソナE  
寛東 マツ子



1人になっても残りの人生を楽しみたいアクティブシニア

ペルソナF  
岩戸 ゆり  
・まさと



生まれ育った地元で子育て奮闘中「子どもファースト」ママ

ペルソナG  
根川 ゆたか  
・けいこ



夫婦で楽しむ、アクティブ健康ライフ!

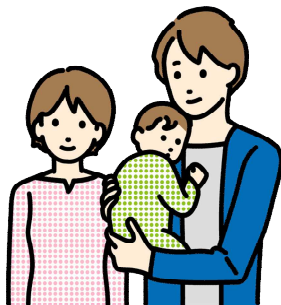
ペルソナH  
駄倉 たかし  
・さくら



仕事も家庭も地域もソツなくこなすスーパーマルチババ

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナA



駒井なおと・えり

#### ■属性

- 32歳 既婚男性(会社員・共働き)
- 大学時代の同級生の妻、もうすぐ2歳になる子どもの3人暮らし。
- 世帯年収 600~800万円
- まだ赤ちゃんがママのお腹にいる2年前に狛江市に引っ越してきた。
- 狛江の『まちと自然のバランス』がとても気に入っている。

### 食の安心・安全を軸に、コンビニエントな都会&自然融合ライフを探るニューファミリー

#### ■生活スタイル

- 平日仕事で、土日休みのメーカーの営業職。残業も比較的多いが、大体20時前には帰宅する。帰宅後は、夕食の片付けや子どものお風呂など、家庭の時間も大切にしている。
- 週末は、子どもと一緒にイベントや買い物を夫婦で楽しむ。子どもがまだ小さいこともあり、出掛けるときは近所の公園や調布のトリエやパルコなど近場に行くことが多い。
- 最近、子どもが食べるものが結構気になっていて、野菜や果物はオーガニックや無添加のものを選ぶようにしはじめた。
- ママが保育園のママ友と休日ランチに出かけるときは、いつも以上に子どものお世話を頑張っちゃう。

#### ■心の声(マインド・価値観)

- 仕事も大変だけど、子育てできるのは今だけ。だから、平日も結構疲れているけど、家事と育児はもう少し頑張ってみようかな。
- イベントに連れて行った子どもが喜んでる姿を見るのが何よりも好き。
- でも、子どもを連れて遠出するのは準備とかも結構大変だから、お出かけは近場がいいな…
- 子どもの成長を感じられる瞬間がとても嬉しい
- 自分も妻も仕事があるので、自然暮らしまではちょっとハードルが高いかな…と思いながら、自然が溢れる田舎での子育てに憧れているところもある。
- 普段は家族優先の生活だから、たまには自分のプライベートの時間や“癒し”が欲しい

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナB



猪方としお

#### ■属性

48歳 既婚男性(会社員)

同じ年齢の専業主婦の妻と、大学生と高校生の子が1人ずついる4人家族。

世帯年収 800~1,000万円

子育てを機に狛江市に引っ越してきて、20年以上が経つ。

子どもも大きくなって、仕事は相変わらず忙しいが、自分の時間を楽しめる余裕が出てきた。

(大げさにいうと)生きがいを探している面もある。

### 第二の人生を見据え、新たな”IKIGAI”獲得をねらう アクティブシニア予備軍

#### ■生活スタイル

平日は仕事で、最近は残業もあまりなく、いつも19時前後には帰宅する。

休日は妻の買い物の付き添いで近場のスーパーや商業施設に行くのがルーチン。

釣りやゴルフをしていた時期もあったが、今はこれといった趣味はなく、仕事のストレス解消や自分のための時間として、たまにゴルフの打ちっ放しに行くくらい。

ビールは好きなので、市内でつくるクラフトビールはよく買っている。狛江駅前に籠屋が来るのを結構楽しみにしている。

両親は、まだ介護が必要なほどではないが高齢にはなっている。両親の様子を見に、たまに実家には顔を出している。

#### ■心の声(マインド・価値観)

自分にとっての新しいコミュニティが欲しいなあ。地域の活動にも関わってみたいけど、町会とかはちょっと面倒くさそう。。

定年後に備えて、そろそろプライベートの方の軸が欲しい。

しばらく家族旅行に行っていない。子どもたちが就職するまでには、家族でどこか旅行に行きたいなあ。

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナC



和泉りん

#### ■属性

27歳 独身女性(フリーランスのデザイナー)  
デザイン事務所から独立して2年。仕事も少しずつ増えてきた。

世帯年収 400~600万円

去年の10月に、狛江に引っ越してきた。

深く考えずに狛江に住むことを決めたが、住んでみると意外とイベントも多く、狛江は結構楽しいまちという印象を持っている。

### 仕事も遊びもクリエイティブに、常に新しい「関わり」を追い続けるエシカル女子

#### ■生活スタイル

平日は仕事。現在は独立しているので、仕事は家でしたり、近くのカフェでしたり。休日は、1日中家にいることは少なく、仕事の情報収集も兼ねて、どこかしらには出掛けることが多い。

SNSは主にインスタ。LINEは最近あまり見ていない。

狛江でのお気に入り、珈琲参道、TAMARIBA、エキナカ本展、狛江湯。最近知ったcomaecolorの活動に興味がある。

もちろん、仕事よりプライベート優先。

#### ■心の声(マインド・価値観)

“人と関わる”ことが好き。実はさみしがり屋なのかな、、自分でもよく分からない。。

もともと周りのことはあまり気にならないタイプ。仕事もプライベートもまあまあ充実しているので、もう少しは今の生活を楽しみたいな。

出掛けた先で新しい“何か”に触れたり得たりすることが、とても心地良い。

興味がある領域は、サーキュラー(循環)、エシカル。

仕事もプライベートも、自分にとっての意味付けを大事にする。

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナD



野川ゆうすけ

#### ■属性

20歳 独身男性(大学生)

生まれてからずっと狛江市在住。現在は50代の両親、高校生の妹と4人暮らし。

両親とはまあまあ良い関係

狛江には愛着を持っているが、両親から狛江の悪口(お金がない、施設が古い、行政サービスも悪いetc...)を聞かされて育った結果、『狛江がスキ♡』という気持ちに蓋がされた。

世帯年収 1,000~1,200万円 ※親の収入

### 静かに新世代のシビックプライドを取り戻す 隠キャTech男子

#### ■生活スタイル

平日日中は大学に通い、夕方からは学校の近くのコンビニでアルバイト。サークルはカードゲーム研究会に入っている。

気の合う友達は欲しいと思っているが、そこまで人付き合いに積極的なタイプではない。

SNSはLINEだけ。

映画や音楽、ゲームなどの“ホームエンターテインメント”が好きで、今は最新のスマートホームデバイスや、高画質な映像・音響機器に興味がある。

#### ■心の声(マインド・価値観)

大学でも友達はあまり多くないけど、自分は「陰キャ」でも「陽キャ」でもない、普通のタイプと思っている。

そろそろ就職活動始まるな～。これまでの人生、何をするのにしても「そこそこ」やってきたけど、自分にも何か打ち込めるものがあるのかな。

「狛江」って、結構いいまちだと思うんだけどな～。(狛江に強い愛着があることを、自分では気付いていない?)

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナE



覚東 マツ子

#### ■属性

68歳 女性(年金生活者)  
生まれてからずっと狛江市在住。5年前に夫に先立たれ、現在は持ち家で1人暮らし。  
亡き夫は、狛江で長年大工の一人親方をしていた。小料理屋の女将として最近まで店を構えていた。  
自宅では犬(マル)を飼っている。  
関西に暮らしている長男、孫(中学1年生、小学3年生)とは週1程度程度電話し合う関係。  
世帯年収 400万円

### 1人になっても残りの人生を楽しみたい アクティブシニア

#### ■生活スタイル

平日は駅前まで来れば友人にも合える可能性があるため、敢えて小田急OXまで買い物に来ている。毎日、朝・夕の散歩を欠かさずに行っている。  
店を閉めてからは時間にもゆとりができたため、友人たちと日帰りバスツアーに参加したり、こまめくぼ1234でボランティアの情報を手に入れて積極的に活動している。  
息子とは距離が遠くて正月以来会えていない。最近、息子からタブレットを渡されてLINEビデオ通話で孫と会話したり、写真が送られてくるのが楽しみになっている。(タブレットの操作方法を一生懸命覚えた。)

#### ■心の声(マインド・価値観)

一人暮らしは大分慣れたけど、息子は関西だし頼れる友人もみんな高齢だから自分で頑張らないといけない。  
時間にゆとりができたから、元気なうちは友人・知人と色々な場所へ行きたいし、遊びたい、人の役に立つことをしてみたい。  
ワンコ仲間と公園で話したり、そこで会おう子どもにもマルを通して会話できることが嬉しい。  
本当は孫の成長を近くで見たいし、すぐに会えないことが寂しい。  
生まれ育った狛江のまちでいつまでも暮らしていきたい。

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナF



岩戸 ゆり・まさと

#### ■属性

42歳 女性(専業主婦)

生まれてからずっと狛江市在住。12年前に結婚し、小学6年生(女子)の3人暮らし。狛江駅から徒歩5分ほどの分譲マンションに暮らしている。

5歳年上の夫とは以前勤めていた会社の先輩後輩の関係で、夫はIT系の会社に勤務している。

長女は中学受験のため、週4日成城学園の塾に通っている。  
世帯年収 1,500万円(本業1,200万円+副業300万円)  
副業は株の配当と都内に所有する不動産収入。

### 生まれ育った地元で子育て奮闘中 「子どもファースト」ママ

#### ■生活スタイル

平日は家事などを済ませた後、ママ友とランチやテニススクールに通っている。

平日の夜は、長女が塾から帰ってくる21:00頃に狛江駅まで迎えに行く生活をしている。

子どもには良い環境で教育を受けさせたいと考えおり、休日は、長女の志望校のオープンキャンパスに付き添っている。

趣味はワインで最近はオーガニックワインにハマっている。

買い物は「こだわりや」で有機野菜のものを選んだり、ふるさと納税で地方の特産品を購入して楽しんでいる

夫は、本業と副業で忙しそうだが、家事の分担や家族の時間も作っている。

SNSはInstagramで時短料理レシピのリアル動画を見たり、地元の店をフォローしてランチできる店を探している。Xは長女の志望校の情報や中学受験攻略などを調べている。

#### ■心の声(マインド・価値観)

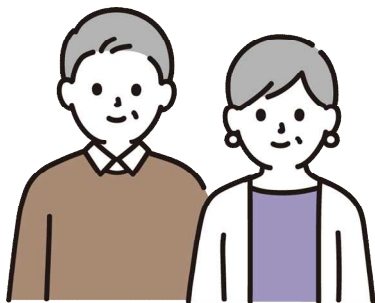
長女の受験の伴走が親として意外と大変だけど、良い環境で教育を受けさせたいと思うため応援している。

地元で知り合いも多く、近隣(徒歩10分程度の距離)に暮らしている自身の親の助けもあり、周りに比べると恵まれていると思っている。

子どもが成長しているのは嬉しいけど、中学生になったら部活が忙しくて一緒にいる時間が減るのかなあ。この気持ちは子離れできていないからかなあ。

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナG



根川 ゆたか・けいこ

#### ■属性

65歳 男性(年金生活者)

結婚後、35年前にマイホームを建てたことを機に狛江市に転入。

妻(60歳)との2人暮らし。

定年まで警察官として働いてきた。

趣味は空手(黒帯)、ジョギング、最近始めた「野菜づくり」

長男(34歳・独身)は都内でサラリーマン、長女(32歳)は

結婚し、家を出ている。

世帯年収 500万円

### 夫婦で楽しむ、アクティブ健康ライフ!

#### ■生活スタイル

毎朝、夫婦で多摩川沿いをジョギングしている。今の目標は東京マラソンに出場すること。

買い物は、平日に妻と駅前のOXへ行っている。

身体を動かすことが好きなため、狛江駅前の空手教室にも通っていて週1日程度汗を流している。最近市民農園の抽選にも当選して、無農薬での野菜作りも始めたことで野菜の成長に喜びを感じている。

妻は民生委員をしており、赤十字の活動など地域の活動にも積極的に動いている。

SNSは長女と妻から勧められてLINEを始めた。

#### ■心の声(マインド・価値観)

自分自身の健康への不安だけでなく、お互いの健康を維持していきたい。どちらか片方の健康が脅かされてしまうと、これまでの生活の楽しみがなくなるおそれがある。

自分が地域に還元できることは何かわからないなあ。

## appendix.3) 8通りのペルソナ

### ペルソナH



駄倉 たかし・さくら

#### ■属性

42歳 男性(建設会社勤務)

10年前、マンション購入を機に狛江市に転入。

家族は、妻(44歳、正社員)、長男(中学1年生)、長女(小学3年生)、次男(小学1年生)の5人暮らし。

妻はこれまでの時短勤務からフルタイムに変わった。新宿からのアクセスも良く、自然も多くパパ友達も増えてきたこのまちが好き。

世帯年収 1,200万円~1,400万円

妻がポイ活にハマっており、メインカードは楽天カード

### 仕事も家庭も地域もソツなくこなす スーパーマルチパパ

#### ■生活スタイル

この春から本社勤務となり土日休みで平日も20:00までには帰宅しているが、妻がフルタイム勤務に戻ったのでできるだけ早く帰るように心がけている。

仕事はあまり手を広げず、やるべきことだけはしっかり行っている。

保育園で仲良くなったパパ友に誘われて、地域のお祭りにも「おやじの会」として参加している。(巻き込まれている?)

夏休みにはキャンプや旅行に行く。今年の夏は沖縄に旅行する予定。

普段の買い物は国領のイトーヨーカドーでセブンマイルを貯め、楽天ポイントやdポイントが貯まるドラッグストアを利用して、貯めたポイントをコンビニやファミレスで使用している。

#### ■心の声(マインド・価値観)

妻がフルタイムに戻り、生活リズムが変化している今こそ自分が積極的にサポートするつもり…けど、忙しくて少し大変!

長男が思春期に入り、最近少しづつ会話も減ってきた気がする。会話のきっかけになることはあるかなあ。

誘われて参加している「おやじの会」も意外と面白いんだよなあ、けど自分が主体的に動くのはハードル高いなあ。

子どもの予定がバラバラで、休日の予定が立てづらい。

家庭も地域の活動も忙しいから仕事はソコソコに要領よくいきたいなあ。

## appendix.4) 令和6年7月実踏において事業アイデアの一部を試してみました！

### 3.“土から始まる！”はくしゅう無農薬野菜クッキング

#### 価値のパターン

私(家族)だけのオリジナルの楽しみができる  
親子のコミュニケーションが充実する

#### やってみて感じたこと(良かったところ、意味、価値)

- 友人と一緒にやる、ということが楽しかった。(銀林)
- 行程をコーディネートする人がいると、パパも積極的にやりやすくなるような気がする(銀林)
- 仲間と一緒に事前の準備を進めたり、後片付けするのも楽しかった。(田所)
- 好物やアレルギーを真剣に考え、仲間のことをより深く知る機会になったと思う。(田所)
- 自分で収穫した野菜をすぐに調理して食べることで、普段より料理への愛着が沸いた。(田所)
- 想定のとおりいかないことも楽しかった。(田所)
- 自分の段取りの悪さをみんなにフォローしてもらえて嬉しかった。(田所)
- 農家さんとの交流を通じて、白州が「誰も自分を知らない旅先」から「自分の場所のひとつ」になったように感じた。結果、白州の地域経済への貢献も自分事のような気がして財布の紐が緩くなり、普段買わないような高級かき氷を購入した。(田所)
- 地元農家の方に直接畑をご案内いただいたり、行っているイベントへの想いをお聞きしたりすることができ、とても良かった。その地に根差し、農業や自然、白州の暮らし・文化と向き合いながら暮らしている方のお話はどれも印象深いものだった。(酒井)
- 農家さんは畑という場を通じて、地元内外の子育て世帯や地元農家、アーティスト等とイベントを行っているが、そこでゆるやかな繋がりが生まれると「また白州に来たい」という気持ちの醸成につながるかもしれないと思った。(酒井)
- 採れたて野菜を料理をする前からそのまま食べられるものについては、非常に美味しいと感じられた。(渡邊)
- 現地に行ってから何を作るかを考えるのではなく、事前に何を作るか相談しておくコミュニケーションの機会も発生する。(渡邊)
- 調理の役割分担で役割を任せることで、達成感も得られる(特に子ども)。(渡邊)
- 大人になるとBBQなどは頻繁にやらないため、久しぶりにできたのは良かった。(塩貝)
- 数時間前にとれた野菜を使ったため、普段食べている野菜よりも美味しく感じた。(塩貝)
- その土地でとれる野菜を活かせるレシピを考えるという点で、「私(家族)だけのオリジナルの楽しみができる」という価値を感じた。(塩貝)

#### 気になったこと

- 献立作りは楽しい反面手探りだったので「基本のレシピ集」がほしい。(田所)
- 居合わせたグループ同士が料理を通じてゆるく交流できる仕組みが作れたら材料が足りないときや料理が余ったときに助け合えたりすると思う。(田所)
- つくること、たべることが食育につながると実感できたので、「親子」をメインターゲットのひとつとする方向性は妥当だと思う。(田所)
- 観光地のお客さん、消費者というより、白州という場の当事者のひとりとして、現地と関わる意識を持ってもらえるようにしたい。(田所)
- 採れたての美味しさはそのまま食べてみる体験があると良かったかもしれないと思った。(酒井)
- 農家さんに調理法や無農薬野菜栽培について、直接聞けず後悔。(酒井)
- 農家さんのお話より、白州に来る動機づけが必要では、とお聞きした。野菜づくり&クッキングに白州の特徴や暮らし・文化等、何かかけ合わせられたら良いかもしれない。(例えば、白州の美味しい水と地元のお米で土鍋ごはん、綺麗な水があるのでわさび田、のように「水」を活かす等)(酒井)
- 現地の人しか知らない美味しいオリジナルな調理法(というか、例えば採れたてならではの美味しい食べ方等。ただ塩を少し振るだけでも美味しいといった方法がある。現地では温泉塩など特有の塩もあった)を教えてもらったりすることで、現地の人との交流が生まれやすくなるのではないかと。(渡邊)
- レシピ考案も試作もお任せだったため、当日作るときにうまく動けず申し訳なかった。事前に参加者全員でレシピを考えたり、調理の流れ、担当などを決めておくことで誰かに負担をかけることなく、スムーズにできると思う。(塩貝)
- 近くで同じくBBQをしている人やテントを張ってキャンプしている人たちとも交流できると新しい繋がりをつくることにつながるのではないかと考えた。(塩貝)
- とれた野菜を使ってBBQをするというのは正直どこでもできてしまうため、白州である意味が必要だと感じた。(塩貝)

## appendix.4) 令和6年7月実踏において事業アイデアの一部を試してみました！

### 14.インフルエンサー限定！白州バスツアー

#### 価値のパターン

自分にとっての新しい繋がりができる  
新しい挑戦ができる



#### やってみて感じたこと(良かったところ、意味、価値)

- 「発信する」という行為が純粋に楽しかった。(銀林)
- 友人と一緒にやるのが楽しかった。(銀林)
- 「新しい繋がりができる」というより、「これまでの繋がりが=フォロワー」のリアクションに嬉しさを感じた。(銀林)
- ツアーの工程を考えるのが少し面倒だった。コースをいくつかつくっておいの方が参加はしやすいと思う。(銀林)
- インスタ上げる写真を撮るためにお店の店員さん等に話しかけたりするので、その人が移住者であったり色々と話が膨らむので、面白いと感じた。(渡邊)
- お土産物を見るだけで、その土地が何を売りにしているかを知ることができ、その売りはどうして生まれるのかを考えることで、土地の自然や立地などを考えるきっかけにもなった。(渡邊)
- 若い人だけでなく、親子向けでも楽しめる場所が多く、ターゲットごとに同じ場所でもインスタに載せる写真やストーリーの作り方を変えることができそうだった。(渡邊)
- 写真や動画を撮ってインスタグラムのストーリーに載せることに関して、新しい挑戦という感じはなかった。ただ、ストーリーはXと違い、文章を載せなくても投稿として成立するため、気軽に投稿できる点は良いと思う。(塩貝)
- 今回は時間が限られていたためストーリーでしか投稿しなかったが、時間があればフィード投稿やリアル投稿でタグ付けをすれば、新しい繋がりを作ることに繋がるのではないかと思った。(塩貝)
- 新しい繋がりを作るといった意味では、お店の人や観光に来ている人と会話してコミュニケーションを取ることも有効だと思う。(塩貝)
- 家族や友人と行くことで、コミュニケーションが充実すると思った。(塩貝)

#### 気になったこと

- ツイートの文面を考えるのがストレスだった。テンプレがあるといいかも。  
※そもそもツイート好きな人はストレスにならないような気もする。(銀林)
- 「新しい挑戦」という価値パターンであれば、ツイッター(インスタ)初心者向けのツアーにして、ツイートする(インスタに上げる)コツを先生が教えながら回るといいかも。(銀林)
- 北杜の人？企業？は、「水」を大事にしているように感じた。(銀林)
- 事前のリサーチ大事。(渡邊)
- 思ったより1箇所にかかる時間が多いので、あまり欲張りすぎないこと。(渡邊)
- 都内(今回のケースだと柏江)とのつながりを意識させるべく、お土産物屋さんにも市内のお店に卸しているアピールをしてもらうといいかも。  
※例えば七賢では銀座のお店に卸している旨が掲載されていて、繋がりを感ぜられるようにしてあった。(渡邊)
- 時期や曜日、時間などによって、営業していないお店や商品があることがわかった。人気スポットやおすすめスポットの営業情報をまとめたものがあるといいかもと思う。(塩貝)

## appendix.4) 令和6年7月実踏において事業アイデアの一部を試してみました！

### 26.白州からの贈り物

#### 価値のパターン

オリジナリティのある製品が提供できる  
新しい学びと“やりがい”が獲得できる



#### やってみて感じたこと(良かったところ、意味、価値)

- 野菜をつくる過程において、地域住民との交流が生まれる仕組みをつくることで、本プロトタイプにおける価値である「やりがいの獲得」だけでなく、「生きがいづくり」にもつながる可能性があると感じた。例えば子どもたちにとっても斜めの関係性が生まれるチャンスにもなり多様な価値観に触れることができる。(西村)
- オリジナリティのある製品を贈り物とすることで、大切な人との絆の更なる深まりにも寄与するのではないかと感じた。(西村)
- 写真や野菜、レシピ等で季節感を感じることができ、送る側も送られる側も心豊かな気持ちになれる。(酒井)
- 今回、メッセージカードはダミー写真使用し作成したが、白州の現地で撮影した写真(収穫の時の写真、収穫前の野菜が木になっているところ等)をその場に入れられれば、オリジナリティがあり、白州の空気感も感じられて良いと思った。また、もし差し込みできるような写真が撮れなかった場合にも対応できるように見栄えのする白州写真をストックできると良い。(酒井)
- 誰かに何かを贈ることで、自分の気持ちがあたたかくなるのを感じた。(田所)
- ラタトゥイユのレシピを材料の野菜と一緒に送ったが、水分の関係でトマトは入れなかった。(田所)
- 現地のトマトを食べてもらいたい、次は一緒に来たいと思った。(田所)

#### 気になったこと

- 白州において実施する事業であることから、地域資源等も一定程度あるところではあるが、狛江市から白州まで(わざわざ)行くという動機付けが必要であると思った(「わざわざ」→「わくわく」に変えていく)。そのためには、地域との交流による関係性の構築が必要であり、また、そこに遊びの要素も加えていくことで動機づけに寄与するのではないかと考えた。(西村)
- メッセージカードまたは別添にしたリーフレット等で、「白州の野菜を贈る」という行為に対してブランド感を感じることのできるビジュアルやロゴ、キーコピー等が視覚的にあると良いと感じた。今回のカードへは仮に「FROM HAKUSHU」と入れているが、「白州から狛江へ」水のきれいな土地で育った野菜をあなたのためにお届けします」のような要素をメッセージとして作成する等、検討できるとよいかも。もしプロジェクト自体の世界観をつくるのであれば、そこに紐づくようにする。(酒井)
- 贈り物の見本やテンプレートがあると考えやすいと思う。(田所)
- 一か所ですべての贈り物を調達、発送できると良いが、郵便局等との連携が必要だと思う。(田所)

## appendix.4) 令和6年7月実踏において事業アイデアの一部を試してみました！

### 33.『白州レジャーフォレスト』

#### 価値のパターン

息抜き、リラクセスの時間ができる  
私(家族)だけのオリジナルの楽しみができる



#### やってみて感じたこと(良かったところ、意味、価値)

- 尾白川渓谷は、出掛ける目的によって楽しみ方は一つに絞られず、様々な興味でも受け入れてもらえる場所だと感じた。勿論、千ヶ淵以降を進めば目的は登山の一択になるが、千ヶ淵までは、アクアシューズで沢登りする者、神秘的な風景を写真に収める者、お年を召した友人同士が岩場に寄りかかって食事していたり、環境学習に取り組む者、淵をプール代わりにして泳ぐ者、高い岩場の上から男子たちが度胸試し？で淵へ飛び込んでいたり、自然を思う存分満喫していた。また、車窓から眺める白州町の田園風景やトレッキングの景色(吊り橋・神社・千ヶ淵等)はジブリの世界を思い出させてくれるような雰囲気だった。(永山)
- 尾白川渓谷についてエメラルドグリーンの透き通った清廉な水でそこに大きな魅力を感じました。犬連れの集団(犬も入れる)や家族連れ、老夫婦、地元の学生、海外観光客など幅広い層がトレッキングや水遊びを楽しんでいた。滝でお話した女性の方は尾白川渓谷に来るのが3度目ということで、リピーターが多いのではないかと感じた。滝の近くはとても涼しく、ずっと見ていられる魅力がありました。また、様々な登山コースがあり初心者から上級者まで楽しめるような場所であると感じました。(伊藤)

#### 気になったこと

- 市営無料駐車場(約100台受け入れ)は約3割の利用だった。学校は夏休み期間であるにも関わらず、ナンバープレートは埼玉、長野、山梨と東京方面はほとんど見かけなかった。狛江からの利用率が上がれば、都内からの特別感も格段に増すかもしれない。(永山)
- 尾白川渓谷に犬連れが多いことや、別班の農家の方のお話で「ドックランが少ない」という意見があったことから、広大なドックランを作れば需要が生まれるのではないかと感じた。(ニッチな層にはなるが)ただし、白州町との地域とのつながりを考えたときにドックランでは狛江市と白州町の特徴を生かすことができないのではないかと思いました。(伊藤)

## appendix.5) 参加したメンバーに感想を聞いてみました！

西村 亜輝彦

(子ども家庭部子ども若者政策課・プロジェクト・リーダー)

事業立案に係る新たな手法を学ぶことができ、部署を超えた皆さんとの意見交換により多くの視点から事業を検討できとても有意義な時間でした！

皆さんと行った白州の実踏はとても良い思い出です。

田所 究

(市民生活部納税課)

窓口や電話で聴いてきた市民の声を思い出しながら、同じ志を持った仲間とともに、狛江に関わる人々にとっての価値と実現の道を考える機会でした。狛江の未来を、もっと明るく、楽しくしていきたいです。

日野 大

(市民生活部地域活性課)

組織の垣根を越えたメンバーで自由に意見を交わし企画を練ることができた時間は、市民のためにその先の地域のためにと、視野が広がるきっかけになりました。実りの多い時間をありがとうございました。

原田 尚吾

(市民生活部地域活性課)

様々な知識と経験を持つメンバーと協力し、事業の企画を検討する過程では、多くの学びと成長を得ることができました。市民の皆様に戻元できるよう励みたいと思います。ありがとうございました。

永山 嘉秀

(福祉保健部福祉相談課)

「白州町の市有地に行ってみよう！」と心弾むような市民の顔を思い浮かべながら考えを巡らせた一年間でした。現地に足を運んだり、自ら実践して、たくさんの気付きを得られた貴重な機会になりました。

酒井 早紀

(都市建設部まちづくり事業課)

未来戦略会議では、これまでに得た経験を基に意見を出させていただいたり、皆さんの知識や考え方に触れながら議論に参加させていただいたり、貴重な時間を過ごせました。1年間ありがとうございました。

伊藤 亮大

(都市建設部整備課)

「市民にとっての価値」を常に考えながらPJに参加しました。会議を通して様々な人達と0から事業を進める難しさと楽しさを同時に学ぶことができました！この経験をこれからの業務に活かしていきたいです！

登録番号(刊行物番号)

R7-21

北杜市白州町 市有地利活用検討プロジェクト報告書

令和7年8月発行

発 行 狛江市

編 集 企画財政部未来戦略室

狛江市和泉本町一丁目1番5号

電話 03(3430)1111